

農と輝の大地

自然に恵まれた交流新拠点

八幡平市は、岩手県の県庁所在地である盛岡市の北西に隣接し、西は秋田県仙北市、鹿角市、北は青森県田子町と接し、北東北(青森・秋田・岩手)のほぼ中心にあります。また、東北自動車道・八戸自動車道と国道282号、さらにはJR花輪線が本市の中央部を縦貫

しており、北東北の交流新拠点として良好な条件が整っています。

市の西部には、八幡平(1613m)を中心とする一帯が「十和田八幡平国立公園」として認定され、その山頂付近は希少で貴重な植物が数多く繁茂しており、自然公園法による特別保護地区に指定されています。近年では、八幡平の頂上付近にある鏡沼の雪解けの様

して全国的に知られています。

また、これらの恵まれた自然資源は豊富なエネルギー資源も有しております。地熱エネルギーは、ゼロカーボンシティに向けた地熱発電所の立地促進、温泉資源は、市内の宿泊施設・別荘のみならず、医療福祉施設、農業用ハウスでも使用するなど積極的な活用を図っております。

農(みのり)とは

りんどう、ホウレンソウ、米や畜産物など他に誇る優れた農産物と、健やかで生きがいや喜びにあふれた人々が「結(ゆい)」の精神で連携・協働していくまちの姿を意味しています。

中でも「安代りんどう」は日本一の生産量を誇り、技術提携によりルワンダ共和国で栽培できる体制を

輝(ひかり)とは

もえる若葉の緑、清らかな水と澄んだ空の青、鮮やかな紅葉の赤、純白の雪といった豊かな自然

整えたことで、日本が冬の時期でも通年で出荷可能となりました。ヨーロッパやアメリカなど海外への輸出強化でブランド力強化も図ってまいります。本年2月には、「いわて八幡平白銀国体」が開催されますことから、ルワンダで栽培したりんどうのビクトリーブーケへの活用を予定しているところであります。



八幡平ドラゴンアイ



日本一の「りんどう」

子「ドラゴンアイ」が話題となっておりま。南部には、岩手山(2038m)がそびえ、中央部には安比高原が広がり、安比高原スキー場を核としたスノースポーツ、ゴルフやテニス、ブナ林散策など、都会の喧騒を離れ、明日への活力を養うための四季を通じたオールシーズンリゾートと



日本初商業用地熱発電所「松川地熱発電所」

と観光・商工業を表し、北東北の交流新拠点として人や物、情報が活発に行き交い、未来に向かって限らない発展をする市の将来像を意味しています。

オールシーズンリゾート地として、桜、紅葉、雪の回廊やドラゴンアイなどを見たり、登山、キャンプ、温泉やウィンタースポーツを楽しめます。ウィンタースポーツでは、スキージャンプの小林陵侖選手とノルディック複合の永井秀昭選手、アルペールビル五輪ノルディック複合団体で金メダルを獲得した三ヶ田礼一選手も、本市の出身です。

明日へつなぐまちづくり

本市の現状として、全国の過疎地と同様、人口減少、少子化および生産人口の減少による課題が山積しております。子育て支援に关しましては、出生祝い金を1人目から50万円に増額、子ども医療費を高校生まで所得制限なしの完全無料化、公立保育所再編整備による待機児童の解消などの取り組みを推進しておりますが、コロナ禍における全国的なさらなる出生数の減少など、厳しい状況が続いております。

しかしながら直近では、450年の歴史を持つイギリスの名門校「ハロウスクール」の日本初の姉妹校となります「ハロウインターナショナルスクール安比校」が開校しました。児童・生徒間、地域との交流・連携により国際都市としてのブランド力向上が図られ、日本国内にとどまらず世界に本市の魅力を発信できるものと考えております。

また、IT起業家育成プログラム（スパルタキャンプ）にも取り組み、市内での新規の起業や、都内のIT企業が子会社を設立したり本社移転をしたりなど、新たな動きもあります。人口減での持続可能な社会を実現する「八幡平市メディテックバレー」プロジェクトも立ち上げております。目指す



ハロウインターナショナルスクール安比校

べき先は、過疎地域が人口減少に立ち向かうための仕組みづくりを全国に広めることとして取り組んでおります。

市内の多くの観光資源、充実したレジャー施設とハロウ校も含めた新たな取り組みなどが、今後の観光客の復活、交流人口・関係人口の増加に向け相乗効果が生まれるような施策を展開していければ

プロフィール

- ◆ 面積 862・30 km²
- ◆ 人口 2万4015人
- ◆ 世帯数 1万610世帯

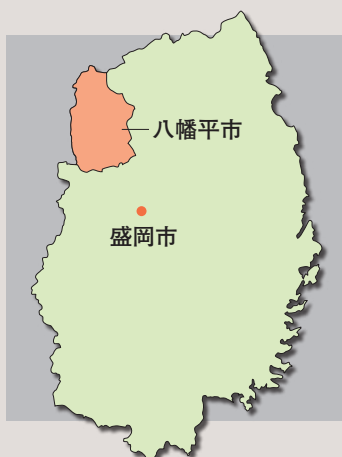
〔将来都市像〕農（みのり）と輝（ひかり）の大地とともに暮らし、しあわせを感じる八幡平市

〔まちの特徴〕りんどうの生産量が日本一。地熱エネルギー、温泉、国立公園の自然景観が共存する観光地

〔市町村合併〕平成17年9月1日、西根町、安代町、松尾村の3町村が合併



八幡平市長
佐々木孝弘



と考えております。

最後に、本市は広大な市域と多様な風土や文化が広がるまちです。県内屈指の観光地であるとともにスキー場や温泉、ゴルフ場など1日では堪能できません。豊富な資源の下に民間事業者の参入も多く、限らない未来が広がるまちです。ぜひこの地を訪れていただければ幸いです。

〔特産品〕りんどう、八幡平地熱蒸気染め、山ぶどう、八幡平牛、八幡平サイモン、わしの尾（日本酒）

〔観光〕十和田八幡平国立公園、八幡平ドラゴンアイ、地熱エネルギー、松川・八幡平温泉郷などの温泉施設、安比高原などのリゾート施設

〔イベント〕山賊まつり、不動の滝まつり、紅葉まつり、八幡平・安比ゆきフェスティバル、あっぱリレーマラソン、平笠裸参り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

歴史と文化に彩られた 果樹園交流のまち

山梨県甲府盆地の東端に位置する甲州市は、豊かな自然を有しながらも東京都心から90分でアクセスすることのできる、恵まれた立地条件です。JR中央本線の駅が三つと中央自動車道勝沼インターチェンジがあり、有利な交通環境の下、年間を通じて多くの観光客が訪れます。市の面積の8割を森林が占め、日本百名山の大菩薩嶺

国内有数の果樹産地

本市に多くある傾斜地では果樹栽培が非常に盛んで、年間を通じて良質な果物が産出されており、サクランボ、モモ、スモモ、ブドウ、こころ柿などは果樹王国山梨の中でも一大産地として知られています。特にブドウは国内で初めて栽培された地として有名な勝沼地区をはじめ、市内各所で棚栽培されており、高級品種として人気のシャインマスカットから、醸造用ブドウとして国内初のOIV認定を受けた



春を迎えたモモ畑と南アルプス遠景



日本固有品種の甲州が国内初のOIVに登録

など北東部の山々は秩父多摩甲斐国立公園に指定されるとともに、甲武信ユネスコエコパークにも登録されています。

甲州まで、多種多様な品種が生産されています。こうした風土からワイン醸造も盛んで、国産ワイン発祥の地である市内には40以上のワイナリーが点在しており、ここから生産される上質なワインはその品質が世界にも認められています。また、モモやスモモの栽培面積も広く、これらの花が咲く4月には一面ピンクの絨毯を敷き詰めたような景色が広がり、特に市産モモのブランドを確立している大藤地区から甲府盆地を望む眺望は壮観です。

世界農業遺産の認定と保全

農業分野において、このような土壌を共通して持ち合わせている本市を含む峡東3市（山梨市・笛吹市）では、その特徴的な果樹栽培の仕組みである「峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム」と、産出される果物の高付加価値化などを目指し、平成27年10月に県、関係団体と共に「峡東地域世界農業遺産推進協議会」を設立し、世界農業遺産認定に向けてさまざまな活動を行ってまいりました。その結果、平成29年には日本農業遺産として認定され、令和4年7月に晴れて世界農業遺産に認定されたところ です。協議会の会長を務めております私自身にとっても、大変喜ばしい出来事でありましたが、それと同時にこれから先はこのをいかに保全していくか、そし



大菩薩峠から富士山を望む



シェアオフィス甲州で快適なテレワークを

て対外的にPRを進めて行くかが重要であるため、この地の果樹農業システムを守り、啓発し、当地域から産出される農産物の高付加価値化を進める取り組みを、力強く推進していききたいと考えています。

武田家の歴史的遺構と文化財

戦国武将として名高い武田信玄公は甲斐の国を拠点としており、本市にはその歴史的遺構が数多く存在します。信玄公の菩提寺である恵林寺には、生前に自らの姿を模して制作させたと言われる武田不動明王像も奉られています。また、信玄公の死後に武田家の家督を継いだ勝頼公が戦いに敗れ、自決した本市大和町田野は武田家

終焉の地であり、その慰霊のために創建された景徳院には、勝頼公親子の墓が建立されています。市内にはこれら武田家にまつわる寺社仏閣の他に文化財も数多く残されており、中でも

武田家代々の家宝とされる「楯無銘」など、国宝3件を有する県内でも屈指の武田家の聖地です。そして、これらの文化財を徒歩により巡るガイド付きフットパス事業は参加者から大変な好評を博しています。

豊富な観光資源を生かしたまちづくり

このように、本市には良好な立地条件と豊かな観光資源があり、これを市の強みとして生かしていくまちづくりが求められます。特にコロナ禍によって経済活動が自粛され、V字回復もなかなか見込みにくいことから、その起爆剤とするべく、本年度に「甲州市観光商工振興協議会」を立ち上げました。この協議会を中心にさまざまなイベントを展開することで、経済の活性化に寄与できるよう計画を進めているところです。

移住・定住促進と交流人口の増加策

山梨県は都会からの移住先として人気の地であり、本市でも力を入れている分野であります。移住を考えている方がお試し移住生活

を体験できるよう、市内2カ所に設置した「お試し住宅」では無料で数日間滞在することができ、地域の文化や環境を味わっていただくことで移住の足掛かりとなるよう、運営を行っています。また、コロナ禍によって注目されたテレワークやワーケーションについては、MEET環境やコワーキングスペースが完備され、どなたでもご利用

プロフィール

- ◆ 面積 264・11km²
- ◆ 人口 2万9922人
- ◆ 世帯数 1万3081世帯

〔将来都市像〕豊かな自然 歴史と文化に彩られた果樹園交流のまち甲州市
〔まちの特徴〕美しく豊かな自然、年間を通じて産出される豊富な果物、武田家関連の貴重な文化財に彩られたまち

〔市町村合併〕平成17年11月1日、塩山市、勝沼町、大和村が合併して甲州市が誕生



甲州市長
鈴木幹夫



いただける「シェアオフィス甲州」を運営しており、これによって交流人口の増加を進めています。これからは甲州市を多くの方に知っていただけるよう、そしてわが市の強みをしっかりと認識した上で魅力的な市となるよう、市民福祉の向上に努めていきたいと考えております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

〔特産品〕サクランボ、モモ、スモモ、ブドウ、こころ柿、ワイン、うらじろ饅頭

〔観光〕フルーツ狩り、ワイナリー巡り、勝沼ぶどうの丘、恵林寺、景徳院、塩山温泉、大菩薩嶺、甘草屋敷
〔イベント〕一之瀬高橋の春駒、桜フェスタ、武田勝頼公まつり、ぶどうまつり、およっちょい祭り、新酒まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

水と歴史に織りなされた安心・快適で 元気な清須市の実現を目指して

清須市は、愛知県西部、尾張平野のほぼ中央に位置し、南部は名古屋市に接しています。平成17年7月に3町（西枇杷島町、清洲町、新川町）が合併して本市が誕生しました。3町合併の後、平成21年10月に本市と春日町が合併し、現在に至ります。人口減少社会において、合併前から

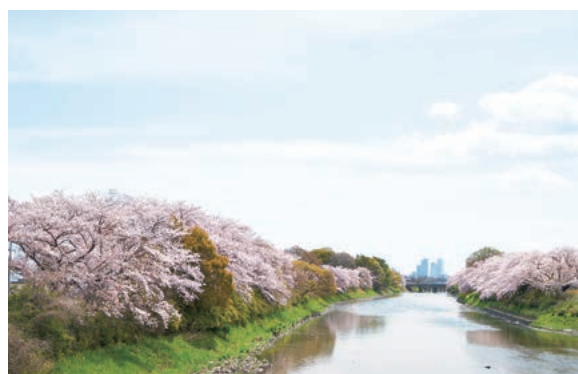
約4分と大変便利です。高速道路も、名古屋第二環状自動車道（名二環）と名古屋高速道路が走っており、東西南北どこからでもすぐに高速道路にアクセスできます。

水と歴史に織りなされた まち清須

清洲城

1 割弱人口が増えていることは大変ありがたい、合併をして良かったと思っています。
面積は17・35km²と狭いですが、交通の便が非常に良く、市内には10の鉄道駅があり、名古屋駅から最も近い駅までは

本市には、庄内川、新川、五条川の三つの河川が流れています。前述の3町が合併して本市が誕生した際、川にちなんだ日として、織姫と彦星が天の川を渡って再会できる七夕の日であるとともに、国土交通省が定めている「川の日」でもあることから、7月7日を合併日に決めました。
本市の歴史は古く、特に織田信長公の天下取りの足掛かりとなった「清洲城」が有名で、現在、



五条川の桜

城跡付近に建っている「清洲城天主閣」は平成元年に再建整備されたものです。また、信長公の後継者を決める「清須会議」でもよく知られています。
さらに歴史をさかのばれば、弥生時代に東海地方最大の都市として栄えた「朝日遺跡」は、居住

域のまわりには環濠と呼ばれる堀がめぐり、全国でも有数の大規模集落でした。「あいち朝日遺跡ミュージアム」は、東海地方最大の弥生集落「朝日遺跡」を紹介する遺跡博物館です。

毎年6月初めの土日に開催される「尾張西枇杷島まつり」は、江戸時代から200年以上続く伝統行事で、五輦の山車の曳廻しや、からくり人形の演舞が見どころです。東海道の宮宿と中山道の垂井宿を結ぶ風情と歴史ある美濃路が、人と露店でひしめく本市最大のイベントです。初日の土曜日には、庄内川の河川敷で見られる盛大な打ち上げ花火が、多くの観客を魅了します。

安全で安心に暮らせる まちづくり、子育て しやすいまちづくり

本市は、平成12年の東海豪雨災害で大きな被害を受けました。市民の皆さまが安全で安心に暮らしていただくことが第一と考



美濃路を彩る尾張西枇杷島まつり



新ご当地グルメ 清須からあげまぶし

え、防災・減災事業を最重点項目として取り組んでいます。災害時には指定避難所として良好な環境を確保するとともに、児童・生徒の体調管理などに対応できるよう、市内全12の小中学校の体育館にエアコンを整備する工事を本年1月末に完了しました。

また、指定避難所および防災資器材等備蓄施設としての機能を有する防災センターを整備してまいります。

令和2年、3年と本市は出生率で愛知県内1位となりました。子育てしやすいまちづくりを目指し、他の自治体に負けないように力を入れて取り組んでいます。子育て世帯の経済的負担を軽減するため、本年7月から子ども医療

費の通院分の無償化を、高校生世代まで拡大する予定です。また、毎年、小学1年生の子どもたち全員に、入学祝いとして市からランドセルをプレゼントしています。引き続き、住環境を整備しつつ、待機児童ゼロを維持するよう取り組んでまいります。

力強い清須市の実現を目指して

令和4年、本市は市内経済活性化に向けた取り組みとして、「清須げんき商品券」を30%のプレミアム分に加え、中小零細事業者店舗での利用制限付き商品券を10%分上乗せして販売しました。また、食料品などの価格高騰に直面する子育て世帯などを対象に、学校給食費の無償化事業や子育て世帯生活応援給付金事業を行ってまいりました。

そして、年末には、コロナ禍にあっても皆さまに元気を出していただくようと、清須の魅力を発信する新イベント「きよすイルミ2022」を開催し、初めて清洲城でのプロジェクションマッピングも行い、多くの皆さまにご来場いただきました。冬の清洲城から

プロフィール

五条川に架かる大手橋をはさんだ左右両岸が、一足早く春の装いで華やかに彩られました。

本市がこれから5年、10年先と大きく成長していくためにも、JR清洲駅前と名鉄新清洲駅の区画整理事業をはじめとする基盤整備や、企業誘致を積極的に進め

てまいります。そして、コロナ禍にあっても未来への投資を着実に進めることで、持続可能な社会を構築し、市民生活をより豊かにするとともに、将来にわたって活力のあふれるまち、「力強い清須」を実現すべく全力を尽くしてまいります。



清須市長
永田純夫

◆ 面積 17・35km²
◆ 人口 6万9172人
◆ 世帯数 3万4511世帯

〔将来都市像〕水と歴史に織りなされた安心・快適で元氣な都市

〔まちの特徴〕名古屋駅から電車で4分、朝日遺跡や清洲城などの歴史と三つの河川が流れる、水辺環境の豊かなまち

〔市町村合併〕平成17年7月7日に、西枇杷島町、清洲町、新川町が合併して清須市が誕生。平成21年10月に、清須市と春日町が合併し現在に至る



〔特産品〕お土産グルメ「清洲城信長ボークカレー・ビーフカレー」「土田かぼちゃアイス」、ご当地グルメ「清須からあげまぶし」、伝統野菜「宮重大根」「土田かぼちゃ」

〔観光〕清洲城、清洲ふるさとのやかと、あいち朝日遺跡ミュージアム、西枇杷島問屋記念館、美濃街道のまち並み、水辺の散策路（庄内川・新川・五条川）

〔イベント〕春日五条川さくらまつり、尾張西枇杷島まつり、新川やると祭、清洲城信長まつり、きよすイルミ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

令和の都 さらに羽ばたく太宰府！

令和の都だといふとして

太宰府市は、わが国の世界・アジアとの玄関口として、九州を管轄する地方最大の役所「大宰府」が置かれた場所であり、いにしえよりわが国の政治・外交・防衛・交易・文化の要衝として発展してきたまちです。

また、大宰府政庁跡や太宰府天満宮、九州国立博物館、観世音寺、戒壇院、水城跡、大野城跡など多くの名所旧跡を擁し、コロナ禍前の最盛期は1000万人にも及ぶ観光客を記録した国際観光都市でもあります。

加えて、さかのぼること1300年前の天平の世、当時の大宰帥・大伴旅人により催された「梅花の宴」の情景を描いた万葉集から元号「令和」が生まれ、本市は「令和の都」として全国から改めて注目



大宰府政庁跡

を集めました。

まちづくりビジョン （四つの構想と戦略）

本市では、まちづくりビジョンの四つの構想と戦略を基に、元号令和発祥の地となった歴史と文化あふれる令和の都、国際観光都市、学問のまちなどの本市が持つ類いまれな強みを生かしつつ、さらなる飛躍を図るとともに、郷土

やわが国、世界にも共通する諸課題を先進的に解決していく、自治体のリーダー的役割を積極的に果たしていくことを目標に掲げ、まちづくりを進めています。

1. 太宰府の底力総発揮構想（成長戦略）

あらゆる手段と知恵を駆使して総結集し、本市本来の底力を遺憾なく発揮することで「令和の都」としてさらに羽ばたき、わが国、そして地方のけん引役にふさわしい役割を果たそうとするものです。

規制緩和を追い風に立ち上げ、脚光を浴びた肝いりの「令和発祥の都太宰府『梅』プロジェクト」を推進し、経済税収効果を飛躍的に高めていきます。また、「ニュー太宰府構想」を策定し、本市を歴史や文化のまちだけにとどまらず、さらなる人口増加や企業進出、交

通利便性の向上などを目指せるまちに脱皮させます。そして、次代を担う子どもたちや若者の意欲を高め、その能力を引き出す「世界に羽ばたく人材育成」も積極的に進めていきます。

2. 太宰府型全世代居場所と出番構想（移住定住戦略）

この地が舞台となった万葉集の精神に倣い、全世代が居場所と出番を持てる心温まるまちづくりを進め、日本一住みやすく世界一元気な都を目指そうとするものです。

学問のまちにふさわしく安心して子どもを産み育てられるまちとして、長年の課題であった「中学校完全給食」を令和5年度に開始する計画を着実に進めています。また、全世代が交流しながら支えあう「全世代交流拠点の創設」や、住まう人も訪れる人も共に慶び合えるまちを目指す「安心安全・バリアフリーの推進」、多様な生き方や個性、価値観を認め合う「多様性の確保」に向けた取り組みについても力を入れて取り組んでいます。



中学校完全給食の契約を締結

3. 令和発祥の都にふさわしい太宰府構想（圏域拡大戦略）

時空を超えた大きな視点でこの地を捉え直し、地域の枠を超えて観光振興や史跡の活用、交通手段の充実などを図り、

交流人口・関係人口の拡大による経済収効果の向上や、交通手段の充実に踏み出そうとするものです。

本市の約16%を占める史跡地を、コストのかかる維持保存型から、価値を生み出す活用型への転換を推し進めています。念願の「文化財保存活用地域計画」が令和4年7月に認定され、「史跡の先進的多用途活用」としてフードトラック実証実験などを行いました。また、あえて広域化することを選択した日本遺産「西の都」などの取り組みを通じて、国県や近隣自治体との広域的・多面的な連携による相乗効果の発揮を図っていきます。

4. 1300年の歴史に思いを致す持続可能な太宰府構想（行財政改革戦略）

本市の1300年を超える国際的、文化的都市としての悠久の歴史に思いを致し、次なる1300年後まで伝えていくため、持続可能なまちづくりを推進しようとするものです。

まずは、公共施設の再編をはじめ料金体系の見直しや補助金改革などを含めた抜本的な「行財政改革のさらなる断行」を推し進めるとともに、行政機能が多様化する中、地域コミュニティや市民などと役割を協働、分担していく「新しい公共の促進」に向けて、まちづくりビジョン会議などを通じ活発な議論を進めています。また、令和3年度に宣

言した「ゼロカーボンシティ」を着実に進め、課題解決先進都市としての面目躍如を果たしていきます。

令和発祥の都太宰府「梅」プロジェクト推進事業

太宰府では、梅といえば太宰府天満宮の飛梅、市の花、そして元号令和の典拠となった梅花の宴です。しかし、史跡地の梅は文化財保護の観点から商業利用が制限されており活用ができませんでした。そこで本市から国に積極的に働きかけ、資源として活用できる規制緩和を勝ち取りました。これを機に、大伴旅人も愛でた

であろう太宰府の梅をブランディングし、グルメやスイーツに仕立て上げ、地場みやげ産業を振興し、ふるさと納税にもノミネートしています。その甲斐もあり、私の市長就任時4000万円であった寄付額が4年で9億円、22倍増まで膨らみました。

さらなる新製品開発につなげるという好循環を実現します。今後は官学連携で梅の成分分析を行い、さらなるブランド価値の向上を図ることなど、令和の都だざいふの中核事業と致します。



太宰府「梅」プロジェクトによる各製品

プロフィール

- ◆ 面積 29・60 km²
- ◆ 人口 7万1518人
- ◆ 世帯数 3万2664世帯

〔将来都市像〕 令和の都 羽ばたく太宰府

〔まちの特徴〕 国指定特別史跡である大宰府跡や水城跡、太宰府天満宮、九州国立博物館をはじめ全国に知られる名所旧跡を多数擁する国際観光都市

〔特産品〕 木うそ、梅ヶ枝餅、令和発



太宰府市長
楠田大蔵



祥の都太宰府「梅」プロジェクトによる各製品

〔観光〕 大宰府政庁跡、水城跡、客館跡、四王寺山、宝満山、太宰府天満宮、龍門神社、観世音寺、戒壇院、九州国立博物館

〔イベント〕 鬼すべ・うそ替え、梅花の宴再現、曲水の宴、千灯明、市民政庁まつり、水城跡・観世音寺の菜の花・コスモス、龍門神社の桜・紅葉

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。